

## 本年度の重点目標

- ・ 一人一人の教育的ニーズを把握し、発達や障害に応じた教育を行う。
- ・ 社会の一員として自立し、社会参加できる人間の育成に努める。
- ・ 健康で明るく楽しい生活を送るために調和のとれた心身の育成に努める。

領域	重点評価項目	中間評価(10月)	総合評価(3月)	
		自己評価	自己評価	学校関係者評価
1 学校経営	学校は、特別支援教育の充実や専門性の向上につながる学校経営を推進している。			
	学校は、教育方針や教育目標、教育活動に関する説明を、適切に行っている。			
2 教育課程・学習指導	児童生徒の教育課題や障害特性等を理解し、その実態に即した指導の取り組みができています。			
	ティームティーチングの特長を生かし、学部やクラスの中で十分な連携や相談を行いながら学習指導を進めている。			
3 生徒指導	社会的な自立を目指し、生活するうえで必要なマナーや知識を身につけていく指導をしている。			
	学校いじめ防止基本方針はもとより、法や基本方針等について理解し、いじめの未然防止及び早期発見・早期対応に努めている。			
4 進路指導	進路に関する情報の精選を行い、進路学習や進路相談、研修会の充実に努めている。			
	児童生徒の実態と課題を踏まえ、関係機関等と連携しながらキャリア教育の推進に努めている。			
5 保健・安全指導	心身の健康の保持増進を図るため、保健・食に関する指導を進めている。			
	生活安全、交通安全、災害安全の各領域において安全に関する資質・能力を実践的に育む指導を行っている。			
6 人権教育	自分の思いを豊かに表現し伝え合う力を育て、温かい人間関係を築ける教育に努めている。			
	学校教育全体を通して人権感覚の育成に努め、組織的・継続的な指導を行っている。			
7 環境教育	ゴミの分別やコンパクト化により、ゴミの減量とリサイクルを考える学習に取り組んでいる。			
	電灯の消し忘れや水の出っぱなし等に留意し、水や光熱費の節減に努めている。			
8 交流及び共同学習	特別支援教育の理解を推進するための良い機会となるような交流(教育)を計画的・組織的に行っている。			
	児童生徒の経験を広げ、社会性のある人間形成のきっかけとなる交流(教育)を計画的・組織的に行っている。			
9 教職員の現職教育	校内研修を計画的に実施し、教職員自らがICT活用指導力の向上に努めている。			
	各学部のニーズに沿った実践・研究の充実を図ることで、学校全体の教育力の向上に努めている。			
10 センターの機能の発揮	保護者や地域各校園のニーズに即した教育相談ができています。			
	両市関係機関との連携を図り、地域各校園の特別支援教育の推進に努めている。			
11 その他学校の取組	保護者と連携しながら、あいさつ・時間を守る・身だしなみに気をつける・社会や家庭、学校等のルールを守る等の基本的な生活習慣が身に付けられるよう指導を行っている。			
	地域に開かれた学校づくりのために、ホームページ等を活用し、積極的に情報発信を行っている。			

(注) ・評価については、A B C Dの4段階で示す。

・生徒指導の欄に、いじめの項目を入れること。また、教職員のICT活用指導力の向上、キャリア教育に関する項目について、任意の領域に含めること。

・自己評価：A B C Dの基準については、評価項目の内容が、十分に達成できた場合(達成度80%以上)はA、おおむね達成できた場合(達成度60%以上80%まで)はB、あまり達成できていない場合(達成度40%以上60%まで)はC、達成できていない場合(達成度40%未満)はDとする。ただし、アンケートの結果等を機械的にA B C Dの評価に置き換えるのではなく、学校の現状を真摯に分析・検討し、今後の学校改善につながるよう、適切に評価すること。